

令和7年度

# 徳島市加茂名中学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

創造性に富み、自ら主体的に学ぼうとする生徒を育成するための  
環境づくりと授業づくり

校長

岩根 正明

学力向上推進員

教頭 竹内 宏子・久米 輝 教務主任 神戸 学  
1学年主任 阿部 佳世 2学年主任 山本 昌  
3学年主任 坂東 真也 特別支援CD 戸村 由絵  
研修主任 近藤 毅 学力向上担当 赤澤 文香  
学力向上推進員 鈴木 彩加

### 【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、教員からの報告等、さまざまな機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科、基礎的・基本的な知識を問うような課題に対しては、意欲的に取り組む生徒が多い。  ●自分のもっている知識を関連付けて考えたり、文章の内容を正確に読み取ったりすることに課題がある。	・授業の振り返りや家庭学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。  ・自らが習得した知識・技能を正しく認識し、他の学習や課題に取り組む際に複数の知識を関連づけたり、活用したりすることができる。	・授業規律を徹底する。  ・ユニバーサルデザインを意識した授業設計で「分かる授業」を展開する。  ・日々の授業の中に基礎的・基本的な知識を定着させるための取組を取り入れる。	・学期ごとに授業参観ウィークを設け、教員同士がよりよい授業を設計するための方法を学び合う機会とする。	・チャイムスタートは97%の達成率であり、授業時間を確保し、授業規律を大切にすることができているといえる。  ・84%の生徒が「授業が分かりやすい」と回答しており、「分かる授業」の実践の成果が見られる。  ・82%の生徒が「授業に集中して取り組んでいる」と回答しており、ユニバーサルデザインを意識した授業づくりにおける一定の成果が見える。	・授業準備やチャイムスタート等、授業の土台となる規律を守る意識をさらに高められるようにする。  ・目標や授業の流れを明示するだけでなく、小テストなどを定期的に行うことによって、基礎的、基本的な知識・技能のさらなる定着をはかる。  ・個別最適な学びの実現に向けて、教員同士が学び合えるようなシステムを構築する。

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題について、自分の意見を表現しようとするができる。  ●自分の考えを根拠を示しながら書く問題、特に自由記述の問題に対しては難しいと感じて書くことを諦めてしまう生徒が多い。	・身につけた基礎的な学習内容を生かし、他者の意見を踏まえながら、自らの考えを相手に伝えるように表現することができる。  ・読書に興味・関心を持ち、様々な文章を積極的に読むことができる。	・各教科で他者と意見を交換したり、共有したりする機会を積極的に取り入れる。  ・生徒たちに「徳島県版読解力」を構成する5つの力をつけるための活動モデルを各教科で取り入れ、生徒の考えを深めさせる。  ・図書館教育と連携したり、読み聞かせや阿波っこタイムズを活用したりすることで、読書活動に親しませる。		・各教科の授業において、他者と意見交換をする時間を設けることで、互いに意見を述べ合うことに対する抵抗感が少しずつ軽減されつつある。  ・5つの力をつけるための活動モデルを取り入れた授業を行うことで、生徒の考えを深化させられたこともあった。  ・図書館の利用率が30%にとどまっているため、今後の改善を考える必要がある。	・自分の考えの深まりに気づけるような声かけを積極的に行っていくことで、自信をつけさせる。  ・文章をついたり、自分の考えを発表する際には、常に相手意識をもたせることができるよう指導を徹底する。  ・図書委員会の活動を充実させ、読書の啓発活動や読み聞かせ等を通じて、さらなる読書活動の推進を図っていく。

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習内容について、理解したいという意欲をもち、分からない部分があれば質問できる生徒もいる。  ●家庭学習の習慣が定着しておらず、自らの課題の解決に向けて計画を立てて学習に取り組むことが難しい生徒が多い。	・様々な学習課題について目標を経て、見直しをもって目標達成に向けて粘り強く努力することができる。  ・自分の苦手な課題について、学習方法を工夫しながら主体的に家庭学習に取り組むことができる。	・目標管理シートを配付し、学習に対する意識を高めさせるとともに、見直しをもって学習に取り組めるようにする。  ・ノーメディアデーを月1回実施し、メディアの活用方法について考えさせる。  ・学期に1度、家庭学習強化週間を設け、家庭学習の質の向上を図る。	・ノーメディアデー後に各学年の達成度をまとめ、結果を保護者に周知することによって、家庭との連携を図る。  ・家庭学習強化週間で目標を達成した生徒にステッカーを配付することで、より達成感を感じたり、積極的な取組を促す。	・目標管理シートを用いて目標の設置から振り返りまでを行ったことが、学習の見直しを立てる際の一助となった。  ・各教員の声かけや掲示等によって、ノーメディアデーの達成度が上がってきており、80%以上の生徒が本取組に対して前向きな意見を寄せている。  ・各取組の結果について、保護者への情報発信を行ったことで、周知が徹底され、取組の効果が高まった。	・定期テストだけではなく、他の様々な場面でも学習課題に意欲的に取り組めるよう支援を行う必要がある。  ・今後も家庭や小学校と連携しながらノーメディアデーの取組を継続し、家庭と連携しながら家庭学習の時間を確保する。  ・家庭学習強化週間の意義や目的を保護者と共有するだけでなく、取組の結果についても周知をしていく。